認め，両病巣ともに中分化腺癌であったことから，S状結腸癌が痔瘻に管腔内転移した転移性痔瘻癌の可能性が考えられた．転移性痔瘻癌の報告は稀であり，広範な会陰部皮膚欠損に対する筋皮弁術の有効性を含め，報告する．

8 小腸閉鎖症が疑われ開腹した新生児症例 — oligoganglionosis か？—

金田　聡・内藤万砂文・広田　雅行
長岡赤十字病院小児外科

症例は4生日の女児．胆汁性嘔吐と腹部膨満で発症．単純レ線で小腸拡張像を認め当科へ．注腸で microcolon を認め，小腸閉鎖症の術前診断で開腹した．上部小腸に拡張がみられたが，閉鎖部はなかった．小腸中央部から徐々に狭小化が認められたが，蠕動運動はみられていた．終末回腸は細くコロコロした胎便がパックされていた．虫垂は olioganglionosis で小腸中央部の狭小化移行部にほぼ正常の ganglion cell が認められ，同部にストーマを設置した．本症例は extensive aganglionosis に近い病態と思われ，今後 bacterial translocation から，敗血症，肝不全への移行も懸念されるため，慎重な管理を要すると考え報告した．

9 PSARP 法（posterior sagittal anorectoplasty）を用いて成人期発症の直腸膣瘻を閉鎖した Hirschsprung 病術後症例の経験

奥山　直樹・窪田　正幸・八木　実
山崎　哲・田中　真司・岡本　春彦*
新潟大学医歯学総合研究科
小児外科分野
同　消化器一般外科*

直腸膣瘻は難治性であるが，我々は成人期発症の本症例に対し PSARP 法を用い直視下に瘻孔を閉鎖，良好な結果を得た．

症例は37歳女性，3歳時に Hirschsprung 病にて Swenson 手術を施行，以降何ら制限なく生活されていた．33歳時直腸膣瘻を発症され経膣的瘻孔閉鎖及び人工肛門造設を施行したが，37歳時再発が確認された．本症に対し PSARP 法を用い，直腸後壁切開により前壁の瘻孔を直視下に観察し，直腸粘膜を直接縫合閉鎖した．2ヶ月後に人工肛門を閉鎖，術後一過性に吻合部狭窄を来すも保存的に軽快した．瘻孔閉鎖部は再発を認めない．

10 腸管嚢腫様気腫症から気腹を呈した短腸症候群の1例

村田　大樹・新田　幸壽・内藤　真一
飯沼　泰史*・小林久美子**
新潟市民病院小児外科
同　救命救急センター*
新潟大学大学院小児外科**

腸管気腫症とは腸管穿孔が存在しないにもかかわらず，穿孔性腹膜炎様の症状や気腹などを呈する疾患である．今回我々は本症の1例を経験したので，文献的考察を含めて報告する．患者は14歳男性．3生日に中腸軸捻転にて小腸広範切除し，残存小腸は4cm．以後14年間在宅にて静脈栄養管理を行っていた．今回側腹部痛を認め，当院救急外来を受診した．腹部は板状硬で筋性防御や Blumberg 徴候を認めた．血算，生化学では異常を認めず，X線写真や CT では気腹や腸管壁などに多数の気腫を認めた．診察中ただちに排便と排ガスを認め，腹痛は下腹部に限局したものとなった．以上より腸管気腫症と診断し，禁飲食と抗生剤による保存的治療にて治癒した．

11 ヒルシュスプルング病三病型の治療経験— 直腸S字結腸型，長域型，超広範囲型

内山　昌則・長谷川正樹*・武藤　一朗*
青野　高志*・岡田　貴幸*・吉澤麻由子*
窪田　正幸**・八木　実**
山崎　哲**・新田　幸壽***
県立中央病院小児外科
同　外科*
新潟大学小児外科**
新潟市民病院小児外科***

直腸S状結腸型，長域型，広範囲型と考えられ